



南高 Forever

File013 05. 2022

山口 浩幸 氏

同窓生
本校PTA会長

南高を選んだことは 間違っていなかったと思えるよう 邁進して欲しい。

令和二年七月に始まったこの企画。まもなく二年となります。南高 Forever はあと三名で終了となります。今回は、本校の卒業生であり、さらには二人のお子さんが本校に通われたご縁もあって、六年にわたりPTA会長を務めていただいたいる山口浩幸さんにお話を伺いました。本校との縁が深く、絶対にお話を伺わなければならぬ方だったのですが、そのような方々が前半に集中しがちになることを避けたため、終盤になってからの登場です。早いうちからいずれは家の農業を継ぐと決意を固めておられた山口さん。高校進学時は近隣の農業高校や普通高校を勧められたそうです。高校に通うために寮生活や町外への通学を強いられることに疑問を感じ、地元の本校へ進学されました。

熱心に勉学に励まれ、その姿勢を評価していた担任の先生から娘さんの家庭教師を頼まれたことも。ですが、自分がわかっていいることとは他人に教えることとは同じではないと考え、お断りしたのだとか。その他にも板書するときには気合が入っていると尻を左右に振っている姿がユニークだった校長先生、はじけるようにピアノを演奏されていた音楽の先生などが印象的でした。さらに、音楽センスが高いと評判だった先輩が中心のバンドに誘われ、ベースを担当。活動期間は数か月と短かったものの、校内で演奏会をされたこともあったそうです。二年生からは生徒会長に推薦され、行事の運営等にも尽力されました。かつて定時制だったなごりで農繁期の夏に行事が少なかった



ことから、生徒会顧問の先生から「一日、何か行事をやってもいいぞ」と言われ、陸上記録会を企画。徒競走だけでなく、飴食い競争やフオークダンスも行い、随分と盛り上がったのだそうです。

他にも学校祭で当時劇場公開されていた「銀河鉄道2000」を描いたアーチを作成したり、友人とトリオでギターの弾き語りをしたりと何事にも率先して取り組んでこられました。

結果的に農業高校には進学されなかったものの、通学時間がかからない地元の高校だからこそ、いろいろなことに挑戦することができました。また、担任の大橋先生が担当していた簿記を学んでおいたことが、現在の農業経営を行う上で大いに参考になっているのだそうです。

上のお子さんが高校進学されるときは、将来、農業経営者となるのであれば幅広く学べる方がよいだろうというのと、やはり遠くの学校に通う労力を考えると、地元の高校の方が良いだろうと考えてアドバイスなさったそうです。

さて、PTA活動は、お子さんが小中学校のときはやっておられなかったものの、当時の本校PTA会長のさんから「次は頼む」との依頼を受け、引き継がれることになりました。

ご自身が学生のころ、PTAが学校にこれほどの関わりを持っていたというイメージがなかったのです。少々驚かれたそうです。

そして、下のお子さんの進学先を本校にしようと決断したタイミングで、本校の令和三年度以降の募集停止が決定しました。PTA会長として、さらには卒業生の一人として、なんとも残念な思いを抱えられたそうです。

～南高生への伝言～
閉校のため皆さんが最後の南高生なので、後輩がいませんし、六人しかいないため、気の合う友人はなかなかできないと思います。

と思います。

さらに、入学してから三年間、コロナ禍のために本来の高校生活が満足にできない状態ですが、卒業までにちよつとしたことでも率先して行動して、少しでも多くの思い出をつくり、南幌高校を選んだことは間違っていないなかつたと思えるよう邁進してください。

周囲の信頼からさまざまな活動に誘われ、取り組まれたことが充実した高校生活につながったことが言葉の端々から伺えました。

ご自身のお子さんはすでに卒業されましたが、PTA会長を本校最後の一年も勤めていただいています。PTA活動もコロナ禍で思うようにできませんが、それでもできることはないかと前向きに考えてくださいます。深く感謝しています。